

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-89644

(43)公開日 平成5年(1993)4月9日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

G 1 1 B 27/024

H 0 4 N 5/782

5/91

A 7916-5C

N 8324-5C

8224-5D

G 1 1 B 27/ 02

C

審査請求 未請求 請求項の数3(全 4 頁)

(21)出願番号

特願平3-247559

(22)出願日

平成3年(1991)9月26日

(71)出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72)発明者 黒崎 敏彦

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器  
産業株式会社内

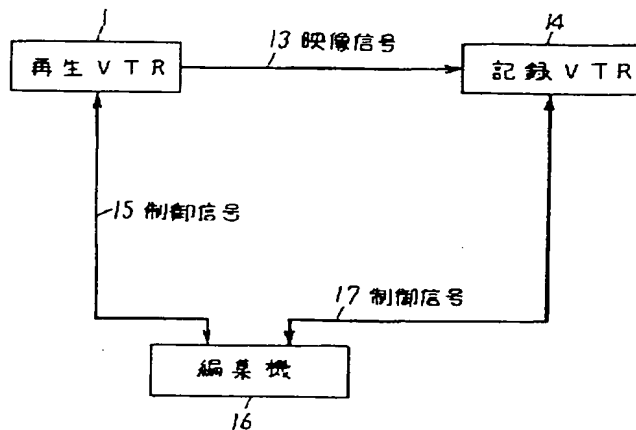
(74)代理人 弁理士 小鍛治 明 (外2名)

(54)【発明の名称】 ビデオ編集方法

(57)【要約】

【目的】 ビデオ編集において、編集作業中、再生VTRの出力映像信号を、ランダムアクセス可能な映像信号記録装置にダビング記録し、以後、ダビング済みの範囲内は、ランダムアクセス記録装置から再生することにより、再生のための待ち時間を大幅に短縮することを目的とする。

【構成】 再生VTR 1の出力映像信号6は、スイッチャー3、および、記録再生光ディスク装置2に入力され、記録再生光ディスク装置2の出力映像信号8はスイッチャー3に入力される。記録VTR 4には、スイッチャー3の出力映像信号7が入力される。これらの機器は、編集機5により制御される。編集作業中、再生VTR 1の出力映像信号6は、記録VTR 4と記録再生光ディスク2に同時に記録される。以後、記録再生光ディスクに記録済みの範囲は、再生VTR 1ではなく、記録再生光ディスク2から再生するように機器を制御する。



めのテープ走行が待ち時間となっていたが、本発明によりこの待ち時間を排除する事が可能になり、編集効率を大きく改善できる。

【図面の簡単な説明】

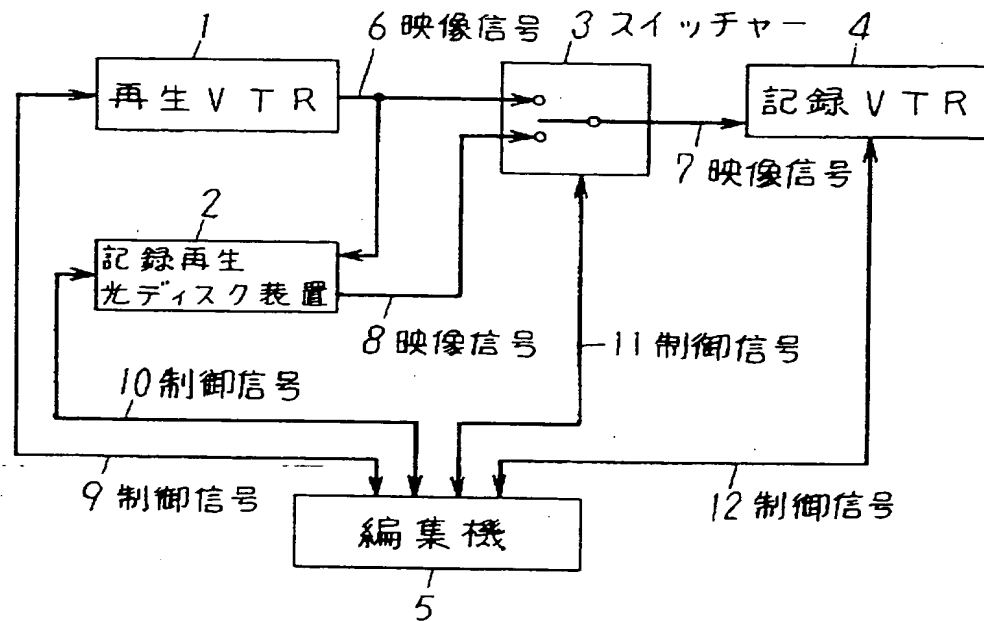
【図1】本発明の一実施例を示す構成のブロック図

【図2】従来の一実施例を示す構成のブロック図

- 1 再生VTR
- 2 記録再生光ディスク装置
- 3 スイッチャー

- 4 記録VTR
- 5 編集機
- 6、7、8 映像信号
- 9、10、11、12 制御信号
- 13 映像信号
- 14 記録VTR
- 15 制御信号
- 16 編集機

【図1】



【図2】

